



ご当地 **よ坊さん** 茨城
みがこーモン

茨 歯 会 報

No.539

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

February
2014
平成26年

2





Contents

デンタルアイ	1
村 居 幸 夫	
会務	3
理事会報告	5
会務日誌	6
広報委員会だより	9
学校歯科委員会だより	11
センターだより	14
新年会だより	17
地区歯科医師会だより	28
大 森 陽 一	
寄稿	33
小 出 主 税	
地区通信	34
リレー通信	37
皆 川 竜 身	
レディースコーナー	39
白 水 寿美子	
会員の異動	41
国保組合 NEWS	42
歯科コラム	43
茨歯アンテナ	44
赤えんぴつ	45

表紙写真について

表紙写真は茨城県フラワーパークで撮影した福寿草です。まだまだ寒い日は続きますが、少しずつ春に近づいています。
(社)東西茨城歯科医師会 石本 崇子

揺れる心



村居 幸夫

デンタルアイの題材とは異なるが名もない歯科医の戯言、年寄りの独り言を聞いて下さい。

昨年、高齢者と呼ばれる年齢に達した。

団塊世代として生まれ、1クラス54名の教室で小学校から高校までを過ごした。勿論、戦後の混乱期の記憶も定かでない。富国強兵教育の時代を知らず、それでいて先生に厳しく指導（今では体罰？）された時代だ。NHKの朝ドラ「ごちそうさん」に登場するガスコンロを見て、かつてご飯も風呂も薪を利用していたことを思い出した。暖房は火鉢と炬燵（炭利用）であった。その後、ガスと灯油による時代が続き、電気器具の時代へと移っていく。

高度成長時代を支えたエネルギー源は水力、石炭・石油であったが、原子力発電が輸入されると各地に原発施設が建設された。二酸化炭素を発生せず（実際には建設過程で膨大な二酸化炭素を発生する）、燃料は再生可能（これも疑問というより破綻に近い）という夢のようなエネルギー源と言われた。3年前に東日本大震災で福島第1原発が壊滅的被害を受けるまでは…！それ以前にも‘79年のスリーマイル島の加圧水型原発事故（レベル5）、‘86年のチェルノブイリでの炉心爆発溶融事故（レベル7）、‘99年のJCO臨界事故と大きな事故の度に原

発の危険性とその処理の困難度が指摘されてきた。使用済み核燃料の廃棄・保管の問題点も多くの学者が警鐘を鳴らしてきた。

日本にある54基の原発は全て過疎地に建設されており、送電線によって大都会や工業地帯に送られている。それに比べ火力発電所は全国どこにでもある。その根本的理由は原発の危険性すなわち〈事故＝大惨事〉となる事が明らかだからである。現段階でも福島第1原発の処理が終息する目途はたっていない状態で、核燃料を冷却するため、大量の水を注入し、その一部が高濃度の放射性物質を含んだまま地下に、海に流れ出ていると考えざるを得ない。大量の放射能を含む瓦礫の処理はその方法さえ提示されていない。

日本は地震大国である。火山列島である日本、「日本沈没」というSF小説は複雑なプレートが入り組んでいる日本では現実味を帯びる。国土面積は世界地図を見れば一目瞭然！このような日本に54基もの原発はいかにも多過ぎる。石油、石炭、メタンハイドレード、深層メタンの埋蔵量を計算すると、これらの資源を使い切るかなり以前にウランが枯渇すると考えられる。核燃料サイクル計画は遅々として進んでいない、というより既に破綻しているのではない

か？使用済み核燃料の廃棄・保管には300年以上の管理を要すると言われる。物質によっては万年単位ともいわれる。

科学の進歩が絶対に安全という保管法を發明できるのか？

疑問を持ったまま今の状態を容認していくことが正しいのか？

子や孫、その子孫たちに負の遺産を残してよいのか？

今、私の心は揺れている!!



We try best!
For healthy and white teeth



株式会社 岩瀬歯科商会

本社	〒110-0016 東京都台東区台東2-23-7	TEL 03-3832-8241
水戸支店	〒310-0804 茨城県水戸市白梅2-8-18	TEL 029-225-6543
宇都宮支店	〒321-0905 栃木県宇都宮市平出工業団地37-6	TEL 028-613-5858
松戸支店	〒270-0034 千葉県松戸市新松戸3-366	TEL 047-345-3131
野木支店	〒329-0111 栃木県下都賀郡野木町丸林384-15	TEL 0280-56-0567

千葉支店・福島支店・世田谷支店・横浜支店・前橋支店・大宮支店・東大和支店・盛岡営業所

会務

新年会開催

1月16日（木）午後4時から、水戸プラザホテルにおいて、恒例の茨歯会新年会が橋本昌知事をはじめ国会議員、関係団体などから約100名の方々のご出席を得て盛大に開催された。



国歌斉唱のあと、挨拶に立った森永会長は「茨城県では65歳以上の人口が70万人を超えたことが9月に発表されました。県民の3分の1が65歳以上ということになります。この超高齢化に対して茨歯会として、生きる医療と一緒に心の医療、生活を支える医療を我々が先頭に立ってやっていかなければならないと考えております。去年は、医師会、薬剤師会、看護協会と四師会協議会を立ち上げました。それによって今まで点に感じていた医療界が、線に、そして面になっていくことを期待しております。これは県にも働きかけて強力なバックアップのもと県民の健康維持に寄与していきたいと考えております。」と述べた。



祝辞では、橋本昌知事が、「昨年3月に歯科医師会と県との間で災害時の歯科医療救護に関する協定を結んでいただき大変頼もしく感じております。さらに、医師会、薬剤師会、看護協会さんと一緒になって災害時の医療救護についていろいろと検討頂いているとのことで大変有り難く思っております。高齢化社会において歯というのは極めて重要な要素ではないかなと思っております。歯の健康維持そして口腔の健康維持のために歯科医師会の皆様になお一層ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。」と、述べられました。続いて、岡田広参議院議員、石井みどり参議院議員、西村まさみ参議院議員、藤田幸久参議院議員、上月良祐参議院議員、石川昭政衆議院議員が祝辞を述べ、小松満県医師会長の乾杯の発声により祝宴となった。



アトラクションでは柴田晶子様（Shibata Akiko）の口笛演奏があり、晴れやかな新春の祝いをより一層盛り上げた。



第154回臨時代議員会会長あいさつ

茨城県歯科医師会 会長 森永 和男

本日は大変お忙しいところ、第154回臨時代議員会にご出席頂き誠にありがとうございます。

さて、昨年は政治的に見ますと、7月の参議院選挙において自民党の圧勝に終わり、一強他弱の政治構造を呈して参りました。アベノミクスと言われ、経済的には安倍支持率の高い状態が続き、経済的にも期待感が持たれてきております。ただ、昨年の国会の流れを見ていますと、期待していた経済成長対策は影をひそめ、実際には第1次安倍内閣で掲げていた理念的戦略（特定秘密保護法案等）が頭をもたげてきた感があります。

T P Pの問題におきましても農業面で聖域と言われたものが崩れようとしております。このままですと、安倍内閣が我々に約束した社会保障制度、特に国民皆保険制度がターゲットにされると危惧しております。この危機に対して今真剣に医療界を考え、先手を打って国民に理解を求める対策を講じなければならないと考えております。

私は今、各方面の方と話し合い、行動を起こしておりますが、その時感ずる事は政治力の大きさです。先生方に新年に当たってお願いしたいことは外を見る目を養って頂きたいと言う事です。

今までは曲がりなりにも保険医として国に守られ安定していた感がありますが、一党支配のなか経済至上主義のもと進んでいけば、この担保も崩壊を余儀なくされるでしょう。その時ではもう遅く、今茨城県歯科医師会としてのアピールをしていかなければなりません。これは歯科医師全体で考えて行かなければなりません。この意味で未入会員ゼロを目指さなければなりません。今年は未入会対策に全力を挙げて行きたいと考えております。

また、今年は長寿社会にあつての健康寿命の延伸を図って行かなければなりません。寿命を延ばすことは無限ではなく、人を100%幸せにする事ではないという事に気づかなければなりません。今まで進められてきた疾病中心とした「生きる医

療」だけでは決して解決出来ない現実を抱えているのです。今こそ「こころの医療」「人を支える医療」が欠落していた事に気づかなくはいけません。生きる医療を追求するあまり、医療が細分化し、結果的に体をものとして考える結果、人間として生きる尊厳を見失ってしまっていると考えます。少なくとも、口腔内の健康維持の面から体全体を考えた時、決して個々の臓器の問題ではなく、総合的医療の大切さを感じます。この事を実現させるために茨城県歯科医師会は先頭に立って運動を展開して参りたいと考えております。

昨年は気持ちも新たに再スタートさせて頂きました。まず取りかかったのが法人改革でしたが、昨年の4月に公益社団法人茨城県歯科医師会として発足できました。これはひとえに先生方のご協力、ご支援があったからこそ達成できたと感謝しております。この事はこれからのいろいろな面で意義のあるものと感じております。

また、県庁の歯科医師派遣に関しては県との話し合いがつき、昨年の4月には採用されると確信しておりましたが、厚労省の問題から採用時期が遅れており、来年度にずれ込む公算が大きくなってまいりました。しかし、歯科行政面からみましても歯科医師の登用は欠かせないものと考えております。引き続き努力して参りますのでご理解を賜りたいと考えております。

今年はもう一つ加えさせて頂きたいのが、会費の定額制です。これから先の茨城県歯科医師会の安定のためにはどうしても避けて通れないと考えております。その他、茨城県歯科医師会にとって改革しなければならない問題が山積しております。それを一つ一つ解決し、盤石なものにして行く為に頑張ってお参ります。

今年も是非、代議員の先生方のお力添えを切にお願い致しましてあいさつとさせていただきます。

理事会報告



第11回理事会

日時 平成26年1月16日（木）午後2時

場所 水戸プラザホテル

1. 報 告

- (1) 一般会務報告
- (2) 後援依頼について
認知症フォーラムin水戸（県央地区認知症を語る会）
- (3) 鉦田市医療福祉費支給制度への公費負担番号導入について
- (4) 県南歯科医師会補助金支給事業報告について
- (5) 1月開業予定の歯科医院について
- (6) 各委員会報告について
学術委員会、専門学校

2. 協議事項

- (1) 入会申込の受理について
森 陽一氏（県南地区）の入会を受理した。
- (2) 事業補助について
水戸在宅医療・介護体験・学習フェア（水戸）
標記事業について承認した。
- (3) 平成26年度事業予算修正（案）について
標記について協議し修正案を承認した。
- (4) 第154回臨時代議員会について
標記について、日程、議案、配布資料等を
協議し決定した。
- (5) 第154回臨時代議員会事前質問について
標記について回答者を協議し決定した。
- (6) がん医科歯科連携講習会について
標記についてテキストの印刷部数と講師料
の支払方法について協議し決定した。
- (7) 平成26年度関東地区役員協議会のテーマについて
標記について、2月理事会に再度提出することとした。
- (8) 新年会役割分担について
標記について確認した。

会務日誌

- 1月16日 「噛むかむレシピコンテスト審査会」を開催。噛む大切さを啓発するため、おいしくて噛む回数が増えるレシピを公募し、小学生以下の部24件、一般の部211件の応募レシピに対し審査を行った。
- 出席者 中川学園調理技術専門学校教員ほか6名 森永会長ほか8名
- 1月16日 第2回議事運営特別委員会を水戸プラザホテルにて開催。第154回臨時代議員会日程、タイムスケジュール、事前質問の取扱い、再質問・関連質問の取扱い、質疑応答の方法、傍聴について協議を行った。
- 出席者 岡田議事運営委員長ほか13名
- 1月16日 第11回理事会を水戸プラザホテルにて開催。入会申込の受理、事業補助、平成26年度事業予算修正（案）、第154回臨時代議員会、事前質問、がん医科歯科連携講習会、平成26年度関東地区役員協議会のテーマ、新年会役割分担について協議を行った。
- 出席者 森永会長ほか20名
- 1月16日 第4回学校歯科委員会を開催。平成26年度事業予算修正、学校歯科保健推進協議会の提出議題、検診時の感染予防、日学歯基礎研修会、歯科医学会のポスター展示、検診基準について協議を行った。
- 出席者 椎名学校歯科委員長ほか8名
- 1月16日 平成26年新年会を水戸プラザホテルにて開催。橋本県知事を始め、衆・参議院議員も招いての開催となり、来賓、会員など合わせて98名が新年を祝った。
- 1月16日 平成25年度茨城県エイズ治療拠点病院等連絡会議が茨城県医師会館にて開催された。
- 出席者 菱沼理事
- 1月17日 いばらき食育推進大会が県民文化センターにて開催され、式典・表彰の後、パネルディスカッション、特別講演、展示・販売が行われた。
- 出席者 藤田
- 1月19日 県歯科衛生士会の新年会が水戸三の丸ホテルにて開催された。
- 出席者 小鹿副会長
- 1月21日 新規指定保険医療機関に対する個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。
- 対象医療機関数 4
- 1月21日 摂食嚥下研修会を開催。「摂食嚥下機能障害への対応ー各障害における摂食指導の実際ー」と題して研修を実施し、全6回のコースを終了した。
- 受講者 88名
- 1月22日 新規指定保険医療機関に対する個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。
- 対象医療機関数 3
- 1月22日 都道府県地域保健・産業保健・介護保険理事連絡協議会が日歯会館にて開催され、地域保健対策の進め方ほかについて協議を行った。

- 出席者 渡辺理事ほか1名
- 1月23日 茨城県学校保健・学校安全研究大会が県民文化センターにて開催される。よい歯の学校などの学校保健・学校安全関係表彰の後、実践発表、その後に「学校安全の今日的課題これからの取組」と題して講演が行われた。なお、席上、新井 徹郎氏（古河市）ほか12名が県学校保健会長表彰を受けられた。
- 出席者 森永会長
- 1月23日 第10回広報委員会を開催。会報1月号の校正、会報2月号の編集、茨城新聞歯科コラム、臨時代議員会取材、歯科医学会取材について協議を行った。
- 出席者 菱沼広報部長ほか5名
- 1月23日 専門学校において第1回一般入学試験を実施。歯科衛生士科に対し6名、歯科技工士科に対し4名の受験者があり、同日行われた合否判定により歯科衛生士科6名、歯科技工士科4名を合格とした。
- 1月26日 口腔ケアベーシック講習会を友部保健センターにて開催。「お口でおいしく食べるために」をテーマに、歯科衛生士による実技指導を交えて、土子吉久介護保険委員長が講演を行った。
- 受講者 46名
- 1月27日 県栄養士会の新春懇談会が水戸京成ホテルにて開催された。
- 出席者 森永会長
- 1月30日 第154回臨時代議員会を開催。平成26年度会費・負担金等賦課徴収方法の修正案に関する件についての議事、その後所得割負担金から定額会費への移行について協議を行った。
- 出席者 小澤代議員会議長ほか60名
- 1月30日 第52回アイ・デー・エス総会を開催。業務報告、平成26年度事業計画及び予算案に関する件について協議を行った。
- 出席者 森永代表取締役社長ほか27名
- 1月30日 第2回防災・危機管理プロジェクトチーム会議を開催。日歯災害歯科コーディネーター研修会、県警との文書、来年度の計画、個人識別チーム課題、警察歯科医推薦について協議を行った。
- 出席者 小鹿副会長ほか9名
- 1月31日 茨城新聞新春合同政経懇話会が水戸プラザホテルにて開催された。
- 出席者 森永会長
- 2月 5日 8020・6424運動推進部会が県立健康プラザにて開催され、定期的に歯科検診等を受けることが困難な者への歯科口腔保健について協議を行った。
- 出席者 森永会長ほか2名
- 2月 5日 茨城県医療審議会医療法人部会及び保健医療計画部会が県薬剤師会にて開催された。
- 出席者 森永会長
- 2月 6日 要保護児童対策地域協議会代表者会議が茨城県庁にて開催され、協議会児童虐待対応指針の一部改定ほかについて協議を行った。
- 出席者 森永会長
- 2月 8日 第5回医療管理委員会をホテル・ザ・ウェストヒルズ水戸にて開催。医療安全講習会、歯

科助手講習会、復職支援講習会、県保健福祉部との懇談会について協議を行った。

出席者 大字医療管理部長ほか9名

2月 9日 第22回茨城県歯科医学会を水戸プラザホテルにて開催。15題の一般口演、14題のポスター発表、5題のテーブルクリニック、3題の公開講座、13の各種企画、書籍展示などを行い、698名の参加者を見た。

また併催した第35回茨城デンタルショーへは55社が出展し、歯科用機材などの展示を行った。

2月10日 内外情勢調査会2月例会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者 森永会長

2月12日 日学歯加盟団体長会が日歯会館にて開催され、平成26年度事業計画案の大綱、入支出予算案の大綱について協議を行った。

出席者 長谷部日学歯代表会員

2月12日 学校保健推進協議会が県医師会にて開催され、各関係機関から提出された事項についての協議、平成25年度関係事業の概要についての報告が行われた。

出席者 森永会長ほか1名

2月13日 県栄養士の主催により第12回県栄養健康改善学会が茨城キリスト教大学にて開催された。

出席者 森永会長

2月13日 第2回講師会を開催。卒業判定について協議を行った。

出席者 小鹿校長ほか23名

2月13日 第2回学校運営委員会を開催。平成26年度備品購入計画（案）、平成27年度入学生入試日程（案）、オープンキャンパス・体験入学日程（案）について協議を行った。

出席者 森永会長ほか11名

2月13日 第2回センター運営委員会を開催。平成26年度事業計画（案）、平成26年度備品購入計画（案）について協議を行った。

出席者 森永会長ほか11名

2月14日 茨城政経懇話会2月例会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者 森永会長

2月15日 茨城県歯科大学同窓会・校友会懇話会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者 小鹿副会長

2月15日 杉山義祥日歯代議員議長就任を祝う会が横浜市「インターコンチネンタルホテル」にて開催された。

出席者 森永会長

2月17日 県防災情報ネットワークシステムの更新に係る第2回説明会が県庁舎にて行われ、県防災情報ネットワークシステムの更新設備ほかについて協議を行った。

出席者 鈴木事務局長ほか1名

2月19日 県民健康づくり表彰式が県庁舎9階講堂にて開催される。表彰式の後、特別講演として、本会常務理事の渡辺進先生が「歯科からはじまる健康長寿」と題して講演を行った。

出席者 森永会長

第154回臨時代議員会報告

広報委員会 小松 栄一

平成26年1月30日（木）午後1時より茨城県歯科医師会館3F講堂にて、第154回臨時代議員会が開催されました。

氏名点呼の後、鈴木副会長による開会の辞があり、次に顕彰が行われ瑞宝双光章を授与された谷川康介先生（日立）が表彰されました。議事録署名人には大澤先生（水戸）、飯塚先生（県西）が指名されました。

続いて、亡くなられた舟久保太先生、宮田要二先生、関本英雄先生、宮崎節子先生、清水湊先生、酒井孝先生、蔵野康先生、野田一也先生、佐藤健先生への弔意を表し物故会員黙祷が行われました。

森永会長挨拶、小澤議長挨拶の後、報告として（１）議事運営特別委員会報告が岡田委員長より、（２）全身麻酔導入経過報告が征矢専務理事よりなされました。

議事は、第1号議案「平成26年度会費・負担金等賦課徴収方法の修正案に関する件」が審議され原案通り可決され、続いて協議事項として「所得割負担金から定額会費への移行について」が協議されました。事前質問は「会費徴収を議論するまえに」（飯塚先生）、「理事会・三役会について」「会員への情報開示及び伝達について」（仁平先生）、「準会員に関して」「在宅歯科医療連携室に関して」「入会申込書」（兼久先生）、「会務の方向について」（橋本先生）「歯科医院での患者負担金のポイント還元」「歯科口腔保健推進法並びに第2次健康いばらき21プランに関して市条例制定について」（町田先生）の9題あり質疑応答がなされました。続いて小鹿副会長の閉会に辞により、午後5時20分頃に長時間にわたる臨時代議員会は終了しました。（詳細は後日発行の茨歯会報に掲載されますので、参照願います。）



第22回茨城県歯科医学会報告

広報委員会 楠美 淳

2月9日、水戸プラザホテルにおいて、第22回茨城県歯科医学会が開催されました。

20年に1回という大雪で交通機関が乱れましたが、午前9時のエントランスには“なでしこ室内楽団”の弦楽三重奏が静かに流れ、開会式に続いて併催のデンタルショーのテープカットが予定通り行われました。

午前10時には一斉に公開講座、一般口演および講演が開始されましたが、多くの会場で空席が目立ちました。デンタルショーは業者さんが来場できずに展示のないブースも目立ちました。会場に着いた先生方は決まって“やっと着いた！”が挨拶になっていました。

講演される先生方はこのような状況をものともせず、少人数の方が身近に語れて良い、忘れられない講演になるなど、ポジティブにお話をされた

のが印象的でした。

噛むかむレシピコンテストでは、235点の応募から入賞12作品の考案者14人に賞状が贈られ、翌日の新聞にも掲載がありました。茨城専門カレッジリーグ公開講座“お弁当プロジェクト”も好評で、デンタルファミリーのみならず、一般市民、学生、そして医療・介護関係者に広く、楽しく歯科に関するアピールを行えたのではないかと思います。

予定をすべて終えた閉会式で、参加者が698名と発表がありました。例年の約半分ではありますが、内容の濃い学会開催だったと感じました。

長い期間をかけて企画・準備をされた各委員会の先生方、事務局員の皆様に感謝を申し上げ、来年は多くの先生方にご参加いただけるよう広報活動を続けていきたいと思っています。



平成25年度 茨城県学校保健・学校安全研究大会報告

学校歯科委員会 長谷部 和子

平成25年度 茨城県学校保健・学校安全研究大会が平成26年1月23日（木）茨城県立県民文化センターにおいて開催されました。この大会は、茨城県教育委員会・茨城県学校保健会・茨城県歯科医師会の主催で毎年1月下旬に行われています。

開会行事の後、平成25年度学校保健・学校安全関係表彰が行われました。以下に表彰内容を記載します。

※茨城県健康推進校

（1）最優秀校（2校）

城里町立常北小学校

鹿嶋市立平井中学校

（2）優秀校（8校）

笠間市立東小学校

ひたちなか市立市毛小学校

常総市立三妻小学校

河内町立生板小学校

稲敷市立あずま北小学校

鉾田市立徳宿小学校

北茨城市立中郷第二小学校

那珂市立第二中学校

※茨城県よい歯の学校

（1）茨城県教育委員会教育長賞

小学校の部（11校）

水戸市立新荘小学校

高萩市立秋山小学校

土浦市立山ノ荘小学校

龍ヶ崎市立長戸小学校

つくば市立手代木南小学校

つくば市立松代小学校

稲敷市立あずま南小学校

かすみがうら市立志筑小学校

古河市立古河第二小学校

筑西市立古里小学校

桜川市立南飯田小学校

中学校の部（6校）

水戸市立第五中学校

笠間市立友部中学校

大洗町立南中学校

日立市立十王中学校

結城市立結城東中学校

桜川市立桜川中学校

高等学校の部（2校）

茨城県立太田第一高等学校

茨城高等学校

特別支援学校の部（1校）

茨城県立美浦特別支援学校

（2）茨城県歯科医師会長賞

小学校の部（5校）

日立市立東小沢小学校

土浦市立菅谷小学校

石岡市立北小学校

つくば市立真瀬小学校

取手市立吉田小学校

中学校の部（2校）

阿見町立竹来中学校

茨城県立並木中等教育学校
高等学校の部（1校）

茨城県立牛久栄進高等学校
特別支援学校の部（1校）

茨城県立下妻特別支援学校

※茨城県学校保健会長賞

学校医（12名）、学校歯科医（13名）、学校薬剤師（6名）、学校長（8名）、保健主事（2名）、養護教諭（12名）、栄養教諭・学校栄養職員（3名）、団体（3校：龍ヶ崎市立馴馬台小学校、ひたちなか市立阿字ヶ浦小・中学校）

学校歯科医の場合は、おおむね55歳以上・学校歯科医歴25年以上が表彰対象となりますが、今年は例年より多くの先生がその荣誉に浴されました。おめでとうございます。

新井 徹郎	内海 正剛	串田 幸子
久保木康輔	小暮 穀仁	櫻井 均
下島 崇	為我井 敏	野口 裕宣
橋本 正一	長谷部和子	古谷 容
増野 周	（敬称略）	

各学校の受賞は担当されております先生方のご尽力の賜物であり、今後とも学校保健・学校安全の推進にご協力をお願いいたします。

表彰の後は、平成23・24・25年度 茨城県教育委員会「学校保健・学校安全研究推進校」である高萩市立秋山小学校の実践研究発表がありました。

研究主題を「すこやかな心と体をはぐくみ、たくましく生きる『秋山っ子』の育成」ー健康・安全な生活について自ら考え、行動する実践力に結びつく指導と校種間連携を通してーに設定し、

（1）児童の学習意欲を引き出す多様な指導法を工夫すれば、実践力に結びつく知識の習得が図れるであろうとの仮説のもと、授業研究部を

（2）児童が自ら進んで取り組む活動を工夫改

善すれば、健康・安全に関する意識が高まり、将来に向けた実践力が身に付くであろうとの仮説のもと、はぎッズ研究部を

（3）校種間連携ユニットの連携をもとに、環境を整備したり、健康・安全活動を推進したりすれば、保健・安全に対する学校・家庭・地域の意識を高めることができるであろうとの仮説のもと、ユニット研究部を

それぞれ立ち上げ、研究にとりくんできたことが発表されました。

つづいて、保健体育課からの行政説明がありました。県内の児童生徒の交通事故状況が説明され、小学校では四輪車の同乗時に、中学校では自転車乗用中に、高校では自転車乗用中と二輪車運転中に多いとのこと。県としては、（1）事故防止のための反射材の着用、（2）頭部保護による事故被害軽減のヘルメットの着用：中学校において、自転車乗用時は義務化、（3）シートベルト、チャイルドシートの着用の徹底を推進していくとのことでした。また、通学路の安全対策については、学校、道路管理者、警察と連携し、緊急合同点検を実施し、対策必要箇所1890か所について順次対策を実施しているとのこと。

昼食をはさんで、13時10分から学校の防災強化について、食中毒・感染症対策、がんの教育の推進について行政説明がありました。防災に関しては、県の「学校防災に関する手引き（改訂版）」を参考に各学校の実態に応じたマニュアルを見直すこと、児童生徒の引き渡しや保護者への連絡方法について明記することが述べられました。引き渡しのルールは、震度5弱以上は保護者が引き取りに来るまで学校に待機となっています。がん教育については、健康と命の大切さについて学び、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つように教育することを目指し、5年

以内に、学校での教育の在り方を含め、健康教育全体の中でどのように教育するか検討し、教育活動の実施を目標としています。

13時45分からは、「学校安全の今日的課題これからの取組」との演題で、日本安全教育学会理事長・東京学芸大学教授 渡邊 正樹先生の講演がありました。学校保健法が平成21年学校保健安全法となり、益々学校における安全教育の推進と管理が重要となってきました。文部科学省「学校安全の推進に関する計画」が2012年4月に発表され、おおむね5年間（平成24年度～平成28年度）に亘る学校安全の推進に関する施策の基本的方向と具体的な方策が示されました。学校が、学校内外で児童生徒の安全を守るための取組を効果的に進めていくには、校長等管理職のリーダーシップの下、学校安全計画を策定し、体制を整備することが必要であり、そのためには、学校安全計画がすべての学校で策定されるように徹底することと、その内容の充実を図ることが急務でありま

す。学校防災に関しては、災害安全について、支援者となる視点からの防災教育が重要で、発達段階に応じて社会に貢献し、災害時に自ら行動するための安全教育を行う必要があります。学校における訓練について、指導者が児童生徒を指導するという前提だけではなく、実際にどのように対応するのか自ら考えて行動し、その行動に対して指導をする訓練を繰り返し実施することも必要です。実際の防災教育やマニュアルについては、文部科学省「学校防災のための参考資料『生きる力』をはぐくむ防災教育の展開」（2013年3月）、文部科学省「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」（2012年3月）を参考にしてください。

15時20分、閉会行事にて研究大会が終了しました。学校歯科医は口腔の課題に限らず、今日の学校におけるいろいろな課題に目を向けることも重要かと思います。今後の先生方の参加を期待して、今年度の研究大会の報告と致します。

アイ・デー・エスは…

医師賠償責任保険

所得保償保険

自動車保険

火災保険

小規模企業共済制度

生命保険

…など各種保険の代理店、集金業務を行います。新規加入、増額変更、何なりと御用命下さい。

（アイ・デー・エスは、イバラキ・デンタル・サービスのイニシャルです。）

有限会社 **アイ・デー・エス**

代表取締役 **森 永 和 男**

水戸市見和2丁目292番地 茨歯会館内 TEL:029(254)2826



平成25年度 摂食嚥下研修会を開催して

茨城県身体障害者小児歯科治療センター

三田村 佐智代, 野村 美奈, 鈴木 哉絵,
鬼澤 璃沙, 金子 雅子, 高橋 裕子,
村居 幸夫, 征矢 亘, 森永 和男

茨城県身体障害者小児歯科治療センターで週1日の摂食嚥下外来を開設して以来、多くの患者さんが来院し、現在では1日に約15名の方がおいでになります。来院経緯は医療機関や学校、就学前施設からの紹介が多く、障害児者に関わる多くの医療従事者、支援者が食べることに関心を示し、地域で取り組んでいく意識が根付いてきているのだと思います。それに伴い、関わる者が摂食嚥下の基礎的な知識や応用技術などについて共通理解のもとに包括的に支援を行っていく必要性が

より求められるようになってきていると思われます。茨城県歯科医師会では全6回シリーズで障害者（児）の食べる機能を育て支援するための知識の普及と、関係者の技術の向上を目的とした摂食嚥下研修会を開催してまいりました。受講者に対し、アンケート調査を実施いたしましたので、内容及び結果についてご報告させていただきます。なお、アンケート調査は第6回研修会開催後にアンケートを配布し記入をお願いした81名の回答について集計しました。

○プログラム

月 日	時間	内容	
H25.8.27	18:20～19:50	第1回講義	食べるための構造とメカニズム
H25.10.1	18:20～19:50	第2回講義	哺乳・離乳期の発達とその障害
H25.10.22	18:20～19:50	第3回講義	自食機能の発達とその障害
H25.11.12	18:20～19:50	第4回実習	摂食嚥下機能訓練の実際①
H25.12.3	18:20～19:50	第5回実習	摂食嚥下機能訓練の実際②
H26.1.21	18:20～19:50	第6回講義	摂食嚥下機能障害への対応 —各障害における摂食指導の実際—

○受講登録者の職場の地域

水戸市	50名	東海村	4名	那珂市	2名
ひたちなか市	15名	美浦村	4名	常陸太田市	2名
笠間市	11名	鹿嶋市	2名	桜川市	1名
土浦市	11名	かすみがうら市	2名	高萩市	1名
大子町	10名	神栖市	2名	筑西市	1名
茨城町	9名	古河市	2名	日立市	1名
常陸大宮市	8名	城里町	2名	龍ヶ崎市	1名
境町	5名	つくば市	2名		

○受講登録者の職種

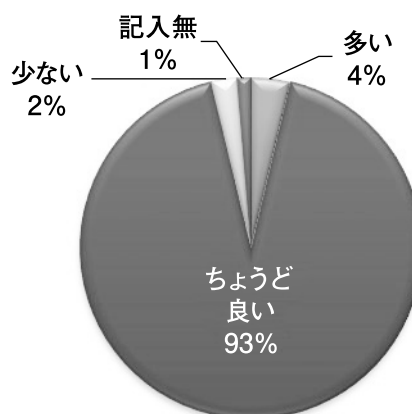
受講者の約半数が特別支援学校や特別支援学級の教諭でした。昨年度より特別支援学校からの要望により連携を図ることが多く、摂食外来にも多くの教諭が児童・生徒と共に来院されることがあ

りました。教育現場での摂食嚥下指導の普及は、より安全で楽しい給食を実践するうえでは欠かせないことであり、今後とも取り組んでいかなければならない点と考えます。

教諭	51名	教育庁・教育委員会	5名	障害者施設副園長	1名
歯科衛生士	23名	言語聴覚士	5名	介護員	1名
支援員・生活支援員	12名	歯科医師	5名	調理員	1名
児童発達支援専門員	7名	作業療法士	4名	管理栄養士	1名
看護師	7名	理学療法士	3名	歯科助手	1名
保育士	6名	保健師	2名	その他	1名
栄養教諭	5名	療育施設職員	1名		
養護教諭	5名	児童福祉施設従事園長	1名		

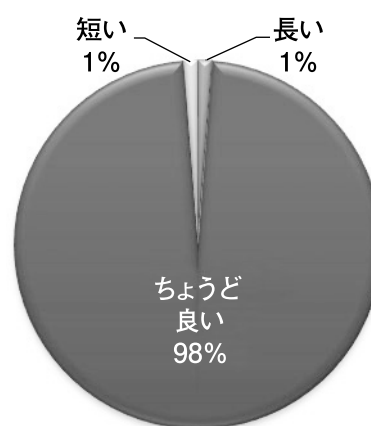
○研修会開催回数について

研修会開催回数は6回有り、不定期な日程でしたが、9割以上の者から「ちょうど良い」と回答が得られました。基礎的な内容を学ぶためには、最短の回数です。「少ない」と回答された方の希望回数は8回であり、今後、応用も含めた内容を開催する必要がある場合には、検討が必要と考えます。



○講義および実習時間について

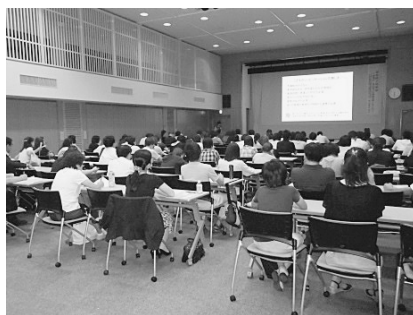
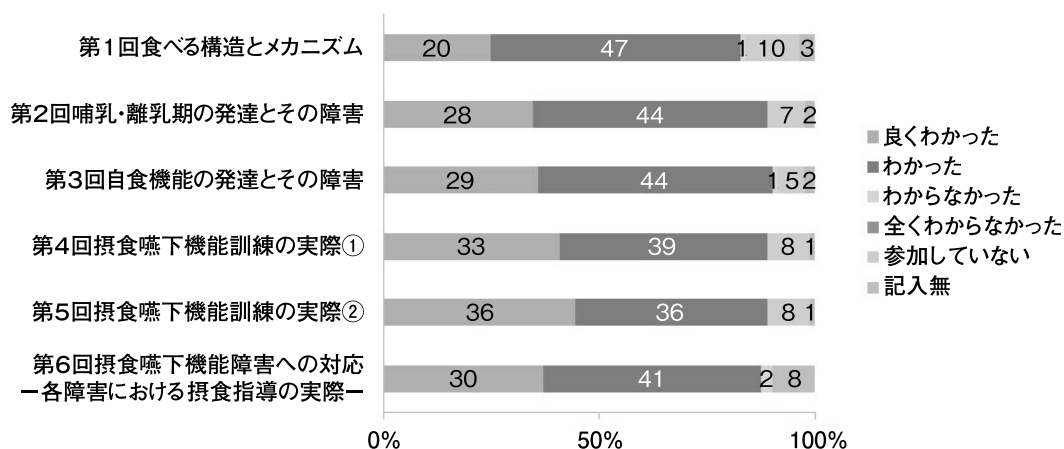
研修会は講義や実習時間と質疑応答を含め90分間で実施をしました。回答では98%の方が「ちょうど良い」とされていました。しかし、「短い」と回答された方の希望時間は120分であり、質疑応答でそれぞれの受講者が現場で対応する方々を例に出し、具体的な方法を質問されることが多かったことから、具体的な知識・技術の習得に時間をかけても良いのかもしれませんが。



○講義および実習の理解度

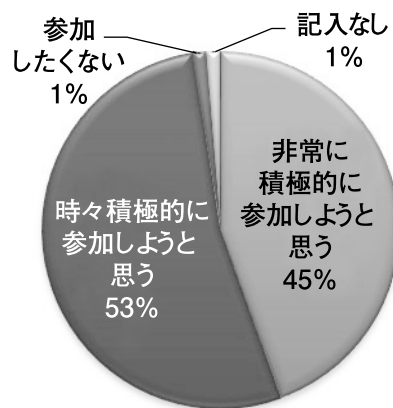
講義内容は、摂食嚥下に関わる生理学や解剖学から始まり、発達とその障害、実際の機能訓練、障害別の対応と系統だてたプログラムとしまし

た。毎回8割以上の方が「良くわかった」、「わかった」と回答しており、研修会の目的は達成できたと思われます。



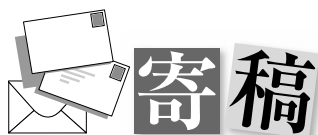
○今後の摂食嚥下研修会への参加

同様の研修会を企画した場合に参加を希望されるか」の質問に対して、45%の方が「非常に積極的に参加しようと思う」、53%の方が「時々積極的に参加しようと思う」と回答していました。具体的に希望される内容としては、事例検討、評価方法や検査方法、実技の充実、調理方法、高齢者向けの研修、基礎的内容などがあげられました。多職種が参加する研修会なので、それぞれの職種が必要とする情報を深く提供することができないのが考慮すべき点と考えます。そして、多くの参加者が研修会を必要と感じており、研修会に参加することで知識や技術の習得のみならず、実際に顔をあわせ、それぞれの現場の問題を質疑応答などで提示していただくことで医療と現場の連携構築の一助になっていると思われました。今後も、何らかの方法で情報提供ができればと思います。



○謝辞

平成25年度研修会のみならず、平成24年度より摂食嚥下研修会の開催に快く同意して下さった、森永会長をはじめ、歯科医師会の先生方に深く感謝いたします。また、事前準備や当日運営等、ご苦勞をおかけいたしました水戸口腔センタースタッフに感謝いたします。



いい歯の日の催し

取手市歯科医師会 小出 主税

11月10日（日）我々、取手市歯科医師会は、毎年恒例の『いい歯の日の催し』を取手歯科衛生専門学校で行った。

今年も、歯科検診をはじめ口腔内細菌検査、口腔がん検診、フッ素塗布を行う検診コーナーを一室設け、隣室では介護用パッキンクッキング、小さなお子様向けの手形模型製作・輪投げゲーム、血管年齢測定が催され、さらには電動歯ブラシ（ブラウンオーラルB）やシュミテクト歯磨剤（グラクソスミスクライン）の展示コーナーも設置された。

当日天気は暴風雨と予報され、午前中から雲行きが怪しかったにもかかわらず、大勢の来場者が開場時には詰めかけ、長蛇の列が出来上がった。

受付で歯ブラシや歯磨きペースト等、その他協賛企業からの試供品入り袋を手にした来場者の方々に、混雑を避けるため比較的空いているコーナーから廻って頂いた。

今回は第20回目の開催を記念して、途中全ての作業を一時中断し、数寄会長をはじめ取手市より藤井市長および幸田教育委員長にもお越しいただき、催しに参加された市民の皆様へのご挨拶として、各々のお立場から熱弁をふるって頂いた。

さらに取手市歯科医師会会長数寄先生へはJ-COMからTV放映用に『いい歯の日の催し』の代表インタビューが行われ、我々歯科医師会のイベントの宣伝を大々的に行って頂いた。

通常は当会の公衆衛生委員が主に計画、実行を行うところを、今年は第20回目記念ということで、



当会の理事の先生方が先導し、念入りな計画の下に行われた催しで、わが町の顔となる来賓客を招待したりと特別な催しとなった。

休日にも関わらず手形模型作りをして頂いた歯科技工士の方々、フッ素塗布を行って頂いた歯科衛生士の方々、各コーナーでアシスタントとなって手伝って頂いた歯科衛生士学校の生徒の方々、受付業務を仕切って頂いた会員歯科医院のスタッフの方、そして展示品の説明をして頂いたブラウンオーラルBやグラクソスミスクラインの担当者の方々、さらには催しに駆けつけて頂いた取手市長と取手市教育委員長、また日本歯科医師連盟をはじめ多くの協賛企業にご協力を頂いたおかげで、非常にたくさんの来場者を迎えることができ盛大な催しとなった。



土浦石岡歯科医師会紹介

(社)土浦石岡歯科医師会 大木 勝生

土浦石岡歯科医師会の地区活動は、総務委員会、学術委員会、介護保険委員会、保険委員会、厚生委員会、医療管理委員会があります。

同好会は、昭和39年に発足し、現在280回の例会を行っているゴルフ同好会の「ミラー会」が有名で、隔月ごとに年6回の例会を行っております。

他にはテニス同好会、ソフトボール同好会「土浦石岡ベイストーンズ」があります。10月の県歯親善ソフトボール大会では、2年連続で県西地区歯科医師会に決勝で惜敗し、準優勝という成績を残しています。今年こそは悲願の優勝をと、江橋会長の胆入りで練習に励もうと思っています。

その他、7月第1土曜日に、つくば、土浦、石岡の3地区対抗ボーリング大会、年に1回会員家族懇親会が開催されます。



ソフトボール大会

土浦石岡歯科医師会は、土浦市、阿見町で開業、勤務する先生が所属する土浦市歯科医師会と、石岡市、かすみがうら市で開業、勤務する先生が所属する石岡市歯科医師会に分けられます。



3地区対抗ボーリング大会



まず土浦市歯科医師会について紹介します。現在会員数は112名で、委員会活動としては、社会保険委員会、介護保険委員会、学術委員会、医療管理・学校歯科委員会、地域保険委員会、公開講座・広報委員会、総務委員会、厚生委員会があり、ほぼ全会員が参加して積極的に活動しております。平成24年1月より、モール505という商業施設のテナントに事務所を設け、毎月第2月曜日に各委員会の担当理事が集まる理事会が、第4月曜日には会員全員が自由に参加できる定例会が開催されます。定例会では、会員のために役立つ情報を各委員会が持ち回りでお伝えするようにしております。委員会活動では、保険勉強会、介護保険勉強会、学術講習会、医療安全講習会等を開催し、医師会、薬剤師会との交流も盛んで、医科歯科懇話会を年に数回開催し、夏には3師会でゴルフ大会を、年末には忘年会を開催しております。他には土浦市とタイアップした土浦健康まつりへの参加、年1回著名な方をお招きして、市民を対象とした市民公開講座を開催、また会員家族懇親会、忘年会等も開催しております。

今望まれていることは、若い先生方の定例会、他の活動への積極的な参加です。お忙しいのは解りますが、歯科医師会の活動に積極的に参加し、会員同士の交流を積極的に図ってもらいたいと思います。

次に石岡市歯科医師会について紹介したいと思います。現在会員数は62名で、委員会活動としては、公衆衛生委員会、保険学術委員会、総務厚生委員会の3つの委員会で構成され、会員全員が委員会に参加して活動しております。活動としては、毎年の節目検診に併せての「口腔がん検診」、これは平成21年に県内で初めて行った事業です。この事業では、検診担当者だけでなく、毎年全会員対象に検診スキルアップ講習会を行っております。また県内3番目になる口腔保健法の市条例制定について、石岡市に働きかけを行っております。ま



土浦市歯科医師会 歯科医師会事務所での会合



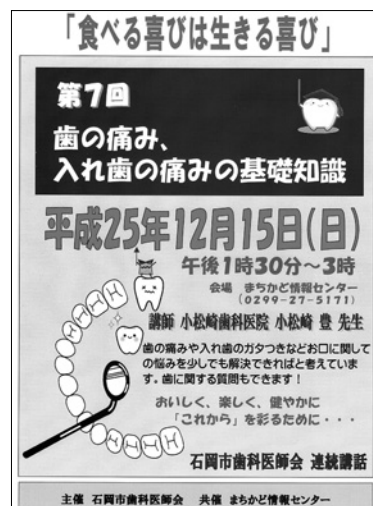
土浦市歯科医師会 会員家族懇親会



土浦市歯科医師会 忘年旅行



石岡市歯科医師会 市民連続講話



連続講話ポスター



石岡市歯科医師会 健康フォーラム 歯科相談コーナー



石岡市歯科医師会 忘年旅行at東山温泉

た1月には石岡市医師会と共催している「健康フォーラム」においての講演や、茨歯会の協力を頂き「相談コーナー」の開設、石岡まちかど情報センターと協力し「市民連続講話」と題し、年1～2回会員が市民の歯科への素朴な質問に答えるよ

うな啓発活動を行っております。また症例発表や技術、器材紹介などの歯科的 content から、行政や他業種の方をお呼びして勉強会の開催、隔年で1泊2日の忘年旅行など、会員が気軽に参加できる事業も行っております。



茨城新聞 2月18日（火）掲載

歯科コラム Dental column

Vol. 16

歯科におけるX線検査の安全性について

公益社団法人 茨城県歯科医師会

広報委員会 楠美 淳

東

日本大震災から、3年が経とうとしていますが、いまだに、福島第一原発の事故により避難されている方が多数いらっしゃる現状を見ると、一日も早い解決を迎えるようお願いできません。

さて、原発事故以来、放射線被曝に対する関心が高まり、歯科におけるX線撮影に対しても不安を抱えている患者さんも少なくないかと思われます。歯科医療においてX線検査は、疾病の原因の特定および診断、治療中の状況、治療後の確認等に必要不可欠なもので、安心して治療を受けていただくうえでも、放射線に関する正しい知識と理解が必要です。

放射線は自然放射線と人工放射線に大別され、自然放射線はその名の通り環境中に存在し、太陽や宇宙空間から降り注ぐ宇宙線が良く知られています。その他にも大地や大気、食品、建物などからも放射線は出ています。しかしこの自然放射線はごく微量で人体に悪い影響が出ることはありません。ちなみに、日本での自然放射線による被爆線量は、1年間で平均2.4mSv（ミリシーベルト）です。一方、人工放射線は、3.11以降問題となっている原子力発電などで発生する放射線や、スイッチを押して電気が通ることにより機械から発生する医療用の放射線のことです。医療用はスイッチを入れない限り放射線が出てくることはありません。

歯科用として一般的に用いられる、デンタルX線写真（歯の一部分を特定して撮影する写真）撮影時の

被爆線量は、1回あたり約10μSv（マイクロシーベルト）、すなわち0.01mSvで、これは前述の1年間の自然放射線による被爆と比較すると、約2日分に相当し、ごく少ない被爆であることが分かります。また、発ガンリスクについては、デンタルX線写真を10枚撮影した場合、皮膚が浴びるX線の量は30〜35mSv（0.03Sv）となります。発ガンリスク係数は1Svあたり0.005なので、発ガンリスクは0.00015となります。したがってデンタルX線写真10枚を撮影しても発ガンリスクはごく小さいという事がわかります。その他のリスクについては、皮膚が赤くなったり髪の毛が抜けたりするのは一度に2000枚程撮影した場合、女性が不妊症になるのはトータルで83万枚撮影した場合で、これらはいずれも仮に計算した結果であって、現実的にはあり得ない数字です。

最後に、われわれ歯科医師は、患者さんの被爆の軽減のため、X線検査が必要最小限になるよう努めています。診療においてX線検査を受ける機会がございましたら、どうかご理解とご協力をお願いいたします。



● 歯科衛生士復職支援講習会 4月3日(木) 10:00～県歯科医師会館にて 〈問い合わせ〉TEL.029-252-2561



公益社団法人 茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

<http://www.ibasikai.or.jp/>

茨城県歯科医師会

検索



ご意見、ご質問をメールにてお寄せください。
opinion@ibasikai.or.jp

茨歯アンテナ

2013年12月11日（水）茨城新聞

**歯と体の健康
森永氏が解説
鉦田でセミナー**

健康応援セミナーが4日、鉦田市鉦田の市鉦田保健センターで開かれ、森永和男（もりわかつと）県歯科医師会会長が「口腔内の健康が体の健康の助けになる」と、歯と長寿の密接な関係を解説した。



森永さんは「歯科医療と健康長寿」をテーマに講演。スライドを交え、「命を守る医療とともに生活を守る医療も大事にしなければならぬ」と指摘した。特に「健康維持には、かむことが必要不可欠。自分の歯で物をかむためにも、かかりつけの歯科医で口腔ケアをすることが大事」と呼び掛けた。

続いて県歯科医師会8020・6424情報センターの藤田かおりさんが、高齢になっても自分の歯を維持する方法を具体的に説明した。会場では、講師の話にうなずきながら熱心にメモを取る受講者の姿が見られた。

口腔内の健康の大切さを説いた森永和男県歯科医師会長（右）と藤田かおりさん＝鉦田市鉦田

2014年2月10日（月）茨城新聞



▲かむ大切さや歯と口
子さんは「焼いたカボチャなどを入れ、いっぱいかめるようにした」、同市立石川小6年、三宅木の実さんは「具材を角切りにして、食べ応えを工夫した」と話した。

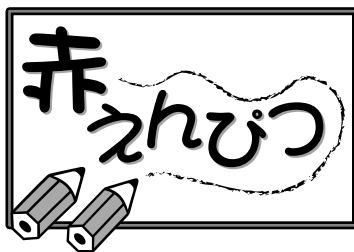


▲よくかんで食べるレシビのアイ目的で、今回が3回目を競う。過去最多の235点の応募の中から、「噛むかむレシビ賞」

（県歯科医師会主催）に小学生以下4点、一般8点選ばれた。

▲農業産出額全国1、戸市千波町の水戸プラザホテルで開かれ、入賞した12作品の考案者14人に賞状が贈られた。水戸市立千波小6年、福原叶

茨城新聞HPに動画



20年に一度といわれる大雪で各地から被害の様子が報道されていますが、皆様は無事だったでしょうか？

4年に一度の冬季オリンピックがテレビで放映され、眠れない夜をお過ごしの方も多いことと存じます。

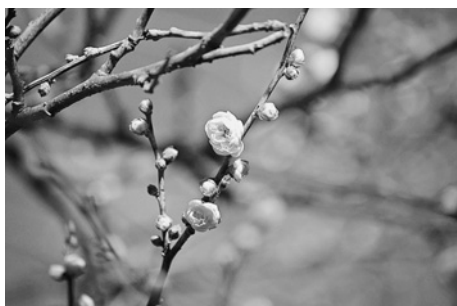
さて、私は1年に一度の人間ドック待合室でこの原稿を書いています。毎日、検査・診断そして診療を仕事にしていますが、立場が逆転すると少しだけ患者さんの気持ちがわかります。

検査結果を少しでも良くしたいがため、姑息的と承知しながら一週間前から禁酒、減食、運動。検査前日には、水戸から大洗を経て那珂湊までウォーキングと断食。おまけに神社で神頼み。夕方、那珂湊駅でビールの誘惑に負けそうになりながら、ひたちなか海浜鉄道と常磐線乗り継いで帰宅。こんなおバカなことをするのは自分だけだと思ったら、友人のA先生も、知人のBさんももっと過激でした・・・。

検査結果は、例年と変わらずγ-GTPと血糖値が高め。さあ、今夜は食べて、飲むぞっ！

ウォーキングの道すがら、ほころび始めた梅の花を見つけました。

春はもうすぐ。



(樹)

ソチ冬季オリンピックを毎晩寝不足で観戦し、感動をもらっています。観戦していて、たまに採点で疑問に思うことがあります。よーいどんでタイムを競う競技は良いのですが、人間が判断する技術点や芸術点等は、どうしても私情が入ったり、競技者の過去の実績等が絡んだりして、不公平ではないかと思うことがあるのです。すべて機械で行えという訳ではありませんが、もう少し素人にも解るような採点のシステムや、機械が導入されたら良いなと思いました。さて、オリンピックで葛西選手がレジェンドと言われていましたが、ロック音楽界でもレジェンドと言われる海外の大物アーティストの来日が続き、ロックおやじとしてはうれしい限りです。(金銭的にはかなりきついですけど…) 2月にエリッククラプトン、3月にローリングストーンズ、4月にジェフベック、ジョニーウインター、TOTOが来日し、今から観に行くのが楽しみです。やはりライブを観に行くと、モチベーションが上がります。5弦のテレキャスターでオープンGをぶっ放したくなります。

(勝)

先日、大ヒット上映中「永遠の0」を観た。昔は、割合好きで時々洋画を観たりしたが、最近ほとんどご無沙汰していた。最後に観たのは2年前に高倉健主演の「あなたへ」、健さんファンとしては出来るだけ観るようにしていたが、あまり邦画は興味がなかったが、息子に薦められていつてみた。原作の百田尚樹の「永遠の0」は、非常にストレートな清々しい気持ちにさせてくれた、また

共感と感動を覚えたフィクションだった。そう言えば、太平洋戦争について戦後世代にあまり語られていない気がしていた。誤解を恐れて語られないのか、いや、あえて見ないふりをしているかのようにも思えるぐらい、まだ振り返るには生々しいからか……。事実かどうかは別にしてもっと語られてもいい時期にきている気がする。ガダルカナルの戦は太平洋戦争の縮図であり、大本営と軍令部の愚かな部分が出てこの戦争の本当の分水嶺となったことや、零戦、特攻という切り口から戦争、家族、愛について語り、特攻は志願だけではなく、強制的な志願だったという場面もうまく

表現されている。多くの若者を「十死零生」のもとと生の選択がなかったという特攻を思うと大本営や軍令部は人間ではないといわれても仕方ないと言い切る著者。デリケートな部分なだけに語りたがらないのもわかるが、逆に知りたいというのも事実だと思う。戦後70年近くたち、多くが戦争を知らない世代となる。この映画の“間”、主演の岡田准一といい、すばらしい映画で、下のほうはしばらく前からユルユルだが、涙腺まで緩んで何度も号泣してしまった。久々に感動した。

(生る)



みんなの写真館

Photo
Gallery



聞いた事がある名前のお花でもたくさんに種類と形がありました。

(社)東西茨城歯科医師会 石本 崇子

会 員 数

平成26年1月31日現在

支 部	会員数 (前月比)
日 立	121 -1
珂 北	143
水 戸	155
東西茨城	73
鹿 行	103
土浦石岡	175
つ く ば	115
県 南	179
県 西	156
西 南	108
計	1,328 -1

みんなの写真館写真募集 !!

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

1種会員 1,140名
2種会員 45名
終身会員 143名
合 計 1,328名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 26 年 2 月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス koho@ibasikai.or.jp

発行人 征矢 亘

編集人 菱沼 一弥



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。